LL ニュース

No. 35

October 15, 2007

愛知大学豊橋語学教育研究室

— イギリス特集 —

ハドリアヌスの城壁

ローマ皇帝ハドリアヌスがブリテン島の北辺の守りとして、122 年から 128 年にかけて、ニューカースルのタイン川河口から大西洋側のソルウェイ湾まで、約 117 キロに及ぶ城壁を築いた。写真はハウスステッズの要塞の城壁から東を展望。（写真・文：伊藤　勲）

CONTENTS

◎ — イギリス特集 —
- ストリート・ミュージシャン（清水一嘉）…… 2
- 芝居比べ —
  「忠臣蔵は、日本のハムレットだ」
  （水落一朗）…… 4
- 英国の地霊に触れて（伊藤　勲）…… 6
- 街で見かけた英語（塚本倫久）…… 11
- マイペースな英国人（磯野　徹）…… 14
- ロレンスとケルト（川名真弓）…… 16

◎英語　e - Learning をバージョンアップ！…… 18

◎近代日本と日本語の悩み
「応」から「可」への書き換え（葛谷　登）…… 19

◎ LL Tea Time
- ドイツ留学体験記
  ～ Meine zweite Heimat ～（大谷美代子）…… 21
- タイで出会った、そして見た！（堀田綾奈）…… 22

◎ 2007 年度外国語検定試験奨励金について…… 24

◎公開講座「言語」2007 後期プログラム…… 24

ストリート・ミュージシャン

文学部
清水一嘉

ここに掲載する一枚の写真（写真①）には妙齢の女性がふたりいて、ひとりはヴィオラ弾き、ひとりはフルートを奏している。夏の昼さがり、日差しを避け、庇の長い帽子をかぶった彼女たちは、いましがたクラシック音楽の演奏に余念がない。腕はかなりのものだが、プロでないことは私にもわかる。

ストリート・ミュージシャンはずいぶん昔からいた。とくに19世紀、大英帝国はなやかなりし頃、ロンドンの辻々でその姿が目撃された（辻音楽師たる所以である）。ひとりの者もいれば数人の者もおり、それぞれが得意の楽器を演奏する。何のためにそうするのか。もちろん金が欲しいからである。生業というのも変だが、これで生計をたてているのだとしたらまさに生業である。なかには体が不具合のためほとんど演奏できない者もいるが、同情と憐憫がかれらに味方する。楽器は単なる方便で、じつは乞食の一歩手前だという者さえいる。楽器を使える者でも楽譜が読めず、小さい頃から耳で聞いて覚えた者が多く、それゆえに自分たちの方が教育を受けた者よりも技術は上だと主張する。

じじつ、多くの者はかなりの腕で、とくに国外からやってきた出稼ぎミュージシャンたちはそうであった。イタリア、ドイツ、フランスなどからやってきたかれらは、到着した当初は海岸の保養地などで仕事をし、シーズンが終わる頃にロンドンにやって来る。産業革命で繁栄の只中にあったロンドンはかれらには金の成る木に見えたのである。あるドイツ人は「ロンドンは外国人ミュージシャンにとってよい稼ぎ場所だという噂を聞いた」といい、べつのフランス人は「イギリスへ行けば大金が稼げる」と友人がいうのでやってきたという。

① 現代のミュージシャン（オックスフォード）

しかし、現実はそれほど容易なものではなかった。ドイツ人は一般に数人でバンドを組み、路上で演奏するだけでなく、パーティや舞踏会や野外で行われる各種の行事に出かけた。「紳士淑女は最良の友だが、労働者の財布の紐はきつい」という。この点については、イギリス人ミュージシャンの反応は違う。あるミュージシャン（盲目だった）は「労働者は私の最良の友である」といい、べつのスコットランド人ミュージシャンは「イギリスの労働者は有力な支持者だ。私の知るかぎりじつに気前がいい」という。一歩まちがえば自身も最下層階級（ストリート・ミュージシャンをはじめ屑拾いや煙突掃除夫など多数）になりかねないこれら労働者たちは自分の境遇や行く末を考えると、ミュージシャンに同情せざるをえないのだろう。それにたいして、外国人は所詮外国人であり、稼ぐだけ稼いだら自国へ帰ってゆくよそ者であった。

外国人ミュージシャンは勤勉で節約家であった。イギリス人よりも安く演奏し（それが侮辱や差別の原因になった）、無駄遣いをせずせっせと金をためる。あるドイツ人ミュージシャンはいう。「私はこの国に来てずっと貯金をしてきたが、まだわずかだ。十分たまったらハノーヴァーに帰りたい。」

ストリート・ミュージシャンの収入は週に12シリングから14シリングが相場だったから、一般労働者よりもはるかに少ない。月曜日と土曜日は実入りがよく、木曜日と金曜日は少ないという。パブにくる客をあてにしたミュージシャンもいて、その多くはイギリス人であったが、かれらは稼いだ金をその場で酒に代えてしまう。しかし、一般にミュージシャンは不誠実という理由で咎められた者はおらず、かれらほど「正直者はいない」というのが世間一般の評価であった。

さきにも触れたが、ミュージシャンのなかには盲

目の者が多かった。当然楽譜が読めないから、耳で聞いて覚える。客のなかにはとりわけその音楽の愛好者がいて、一定額の収入を保証した。かれらはまじめで、信仰心あつく、洗練された趣味と性向を持ち、ほとんどが既婚者であったという。

ミュージシャンの演奏する楽器はクラリネット、フレンチ・ホーン、トロンボーン、サクスホーン、バイオリン、手回しオルガン等々さまざまである。なかでも人気があったのが、ハーディガーディ、別名ストリート・ピアノで、大型のこの楽器は多分底についた車かなにかで移動させたのであろう。人気の秘密は、これが下町にやって来ると、近所の子供たちが一斉に家からとび出してきて、音楽に合わせて踊りはじめたことにある（写真②)。彼らはたいてい小さな女の子を連れており、彼女が踊りだすと、それに合わせて他の子供たちも踊りだす。にぎやかにくりひろげられる子供たちの踊りは道行くひとの足を止め、ひとときの安らぎと娯楽を提供するのである。

さて、現代のストリート・ミュージシャンに話を移そう。私が毎夏行くオックスフォードはそれほど大きな町ではない。40いくつものカレッジが多くの場所を占め、残った土地はわずかだが、それでもひとの住む家やホテルや商店街はある。そして夏になると大勢の観光客が押し寄せ目抜き通りのコーンマーケット（昔トウモロコシの市が立ったのか）は立錐の余地がないほど（？）ひとの群れであふれる。そして、この場所に現代のストリート・ミュージシャンが姿を現すのである。ギターやドラムやその他私の知らない現代楽器を手にし、大きな音を奏で、自分でもマイクに向かって歌う。さきの100年前のミュージシャンのようにぼろやだぶだぶの古着を身にまとう者はおらず、最近流行のファッションを身につけ、ほとんどは20代のかれら男女はいずれも「かっこいい」のである。このような目抜き通りを選ぶのも、ひとの目をひき、多くの実入りが期待できるからである。地面におかれた楽器入れのケースに投げ込まれる小銭がかれらの収入である。

ちなみにイギリスで帽子を使うのは乞食である。オックスフォードの町には乞食が多く、たいていは犬を連れ、帽子をおき、道行くひとに「チェンジ、プリーズ」と哀れな声で呼びかける。じつをいうと、私はこの声を聞くのがいやで、乞食がいると前を迂

② 100年前のミュージシャン（ロンドン）

回して通りすぎる。あるとき若くて可愛いい女性が乞食をやっており、これはいったいなに？　と思っていたら、そのうち謎が解けた。彼女には男がいて毎日同じ場所へ車でつれてくる。朝夕彼女を職場へ送り迎えしていたのである。若い娘はひとの同情を買い結構いい稼ぎになるものとみえる。

ストリート・ミュージシャンにもいろいろある。さきの写真のふたりの女性は大通りの華やかな連中とはかなり雰囲気が違う。かたわらに小さな箱を控えめに置き（なかにはほとんど小銭ははいっていない)、場所も人通りから遠く離れた大学の図書館脇である。たぶん彼女たちの主たる目的は小銭ではなく、自分たちの演奏をひとに聞いてもらいたいためだろう。どこかの音楽学校の学生で、日頃の成果を披露するためにこの町にやってきたのである。人前で演奏するのは今日が初めてなのかも知れぬ。初々しさと含羞を兼ね備えたふたりの姿はいかにも印象的である。

大通りのとは対照的なこのような控えめなミュージシャンもオックスフォードではよく見かける。この町へ来れば、音楽を理解するひとが多いことが期待できるし、たぶんなによりもアカデミックで落ちついた町の雰囲気がかれらを引き寄せるのだろう。100年前にはこういうストリート・ミュージシャンはオックスフォードにもロンドンにもいなかった。

100年前のストリート・ミュージシャンは生きるために懸命に働き、下層社会からの上昇指向を目指していた。他方、現在のミュージシャンは、ライブ的感覚で自分の技を聴衆にアピールし、階級意識を持つことはなく、持つとすれば、いつか世に認められ、メジャーになって活躍する夢であろう。

芝居比べ―「忠臣蔵は、日本のハムレットだ」

文学部
水落一朗

「近松門左衛門は、日本のシェイクスピアだ」

互いを比較するときに相互の代表者をならべて、「近松門左衛門は、日本のシェイクスピアだ」という表現を用いることがあります。それに倣うと、これから述べることは、「忠臣蔵は、日本のハムレットだ」ということになります。イギリス文学を代表する作品と歌舞伎の名作を比べてみます。

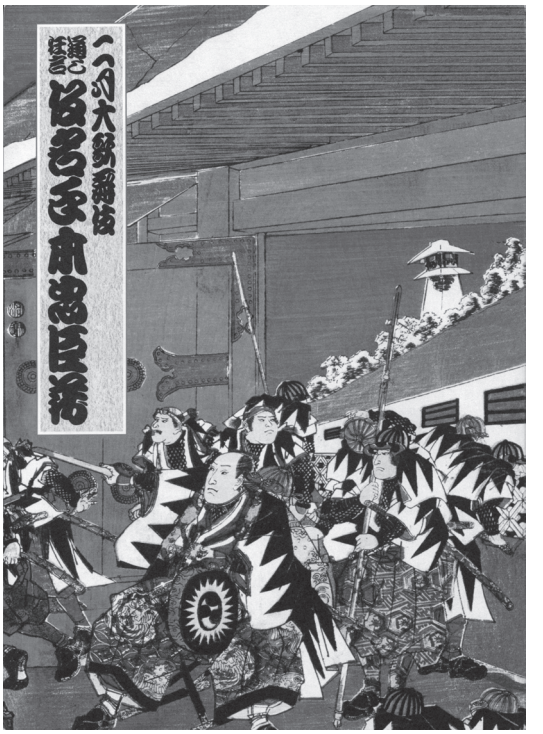
まず『仮名手本忠臣蔵』(1748) は、赤穂の四十七士の討ち入り事件を扱った諸作品の頂点に位置する作品であり、それ以後も同じ題材を取り上げた作品が多数演じられてきたにもかかわらず、その地位は依然として変わっていません。一方『ハムレット』(1601) も、同じ事件を題材にした作品がそれ以前に存在したことが知られており、グローブ座で上演される前から流行していた復讐劇の集大成のような作品です。またそれ以後の復讐劇に大きな影響を与えただけでなく、作品自体が時代の変化に伴い幾度となく書き換えられながらも、エリザベス朝時代ばかりでなく「すべての時代」の代表作として今日に至っています。時間の尺度で計ると、両者にはおよそ150年もの隔たりがます。これだけの時間差があると、厳密な意味で比較することが出来ないか、比較しても意味がないかのどちらかになります。しかしながらこのふたつの作品は不思議なほど類似しているのです。いくつもの類似のなかから三つ選んでみました。

(1)「貴殿の奥方は貞女でござるな」(三段目　足利館)

新田義貞のかぶとをしっかり記憶している人物として塩谷判官の妻である顔世御前は登場します。その顔世御前に横恋慕している高師直の結び文にたいして次のような歌を返したことから、思いもかけない事件が出来するのです。

さなきだに　重きがうえの　小夜ごろも
わが妻ならで　つまな重ねそ

この『新古今和歌集』から選んだ和歌の意味は、夫がいるのでいくら思いを告げられても無駄ですよという返事なのです。この歌の出典と意味が即座に判断できるほどに彼は教養のある人物なのです。和歌の師匠は『徒然草』の作者吉田兼好という仕掛けです。この返歌を顔世御前の夫である塩谷判官が出仕してきたところで読まされた高師直は、実らぬ恋の鬱憤を筋違いにも判官に向けてののしりついには、「鮒侍だ」とあざけって剣を抜かせてしまいます。まったく思いもかけない形で塩谷判官は切腹ということになってしまいます。



2007年2月
歌舞伎座での通し上演のパンフレット表紙

これにたいして『ハムレット』でも、ことの起こりはデンマーク国王の弟クローディアスが兄の妻、つまり義理の姉に横恋慕したことです。毒殺された国王ハムレットは、亡霊として登場し次のように息子ハムレットに告げます。

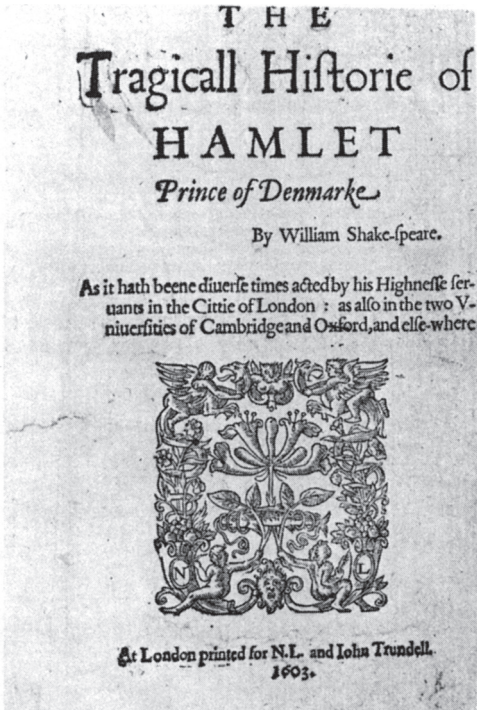
「ああ、忌まわしき悪知恵だ、ああも女を／たらしこむとは！－やつは、貞淑の鑑と見えた／わが妃の心を、恥ずべき情欲の手中に収めたのだ。」（１幕５場）

しかし歴史上の赤穂義士の討ち入り事件では、このような始まり方はしていません。『仮名手本忠臣蔵』の世界では男女の情欲が、それも王朝風の和歌のやり取りの形式をふまえた宮廷風恋愛として、芝居を始動させているのです。そしてそれが『ハムレット』と共通していることは注目すべきことです。単なる偶然のように見えますが、実は二つの芝居の作者たちは、時代と様式を越えて名作になる復讐劇の発端にふさわしい動因をかぎつけていたのかもしれません。

（２）「見るもの聞くもの、すべてが俺を責め、／鈍った復讐の決意に鞭をくれる」（４幕４場）

同じく復讐と見えながら、見方によってはまったく違います。それは、復讐する相手がはっきりしているかどうかという観点です。ハムレットにとっては父国王の死因が何か知る手立てが無いために、叔父クローディアスが本当に殺害したのかどうかわからないままなのです。それにたいして『仮名手本忠臣蔵』においては、復讐する相手がはっきりしています。（ただし、必ずしも自明でないことがわかってきます。）

このような違いがあっても、観客には主人公たちが復讐を遂げなければならない運命は知らされているというべきでしょう。そして相手が誰にせよ復讐がなされるためには相当長い準備時間が必要のはずです。そこで二つの芝居に見られるおおきな相違は、


THE
Tragicall Hiſtorie of
HAMLET
Prince of Denmarke
By William Shake-ſpeare.
As it hath beene diuerſe times acted by his Highneſſe ſeruants in the Cittie of London : as alſo in the two Vniuerſities of Cambridge and Oxford, and elſe-where
At London printed for N.L. and Iohn Trundell.
1603.

『ハムレット』第１クオート版（1603）の扉

復讐を遂行するために逡巡するように見える時間にたいする意識の差異です。ハムレットの場合は、彼の心の奥底で演じられる内面的な葛藤として時間は意識されます。大星由良乃助の場合は血判状に名前を連ねた集団の構成員をどのようにまとめて目的を果たせるのかという集団内の葛藤の調整に費やされる時間として意識されます。ハムレットが近代的な自我の誕生を演じているとすれば、大星由良乃助は「和をもって尊し」とする日本人の伝統的な集団を統率するために必要とされる時間の経過を意識していると言えます。

そのような決定的な相違があるとしても、復讐が遷延されているように受け取られたとしても観客はいつになったら本望が果たされるのか固唾を呑むことになります。その点は同じような効果をもたらしているのです。

（３）「ハムレットの妻になってくれたら思っていたのに」（５幕１場）

復讐という血なまぐさい報復行為は、男たちの仕

事であるように見えながら思いもかけない形で女たちに犠牲を強います。現れるかたちは二つの芝居でまったく異なっていますが、その根底にあるものは同じものということができます。女性にたいする理不尽なまでの犠牲の強要です。『仮名手本忠臣蔵』においては、夫勘平が義士仲間になるための拠出金を用意するためにお軽は祇園の茶屋に身売りします。さらにはその茶屋で妹お軽に再会した兄寺岡平右衛門は、身分が低いために討ち入りに参加できないと思いつめるあまり、義士たちの秘密を知った妹を殺すことで参加を認めさせようとするのです。

ハムレットがオフィーリアに「尼寺へ行け」と繰り返し命令するのも、二人が添い遂げることの拒否であり、さらにはすべての女性にたいする呪詛でもあるのです。オフィーリアは、父親からも兄からもハムレットと交際することを禁じられていますから、愛していると思っていたハムレットからもこのようにいわれると、どこにも身のおくところがなくなってしまいます。それに加えて、父親がハムレットに殺害されたという噂が伝わると、彼女の心は錯乱しついには自害してしまいます。

これと対応するように、『仮名手本忠臣蔵』では大星由良乃助の息子力弥と許婚の小浪は、父親同士の思いがけない不倶戴天の敵対感情から結ばれることが不可能に見えたときに、娘の気持ちに引きずられるように父親が自らの命と引き換えに、討ち入りを成功に導く極秘情報を持参金として添えて娘小浪を一夜妻でもいいからと力弥と結婚させるエピソードが終幕近くにあります。まるで『ハムレット』のエピソードが陰画だとすればその陽画を見ているような気持ちに誘われます。レアーティーズが妹の狂気を見て、「これほど復讐を促すものはほかにない」というせりふが、力弥と小浪の結婚にいたる経緯と重なります。この結婚は小浪の願いというよりも社会の掟が強要する儀式だからです。復讐とはそれほどの犠牲を女性に強いるものなのです。

英国の地霊に触れて

経済学部
伊藤　勲

ブリテン島は不思議な気を感じさせる島である。様々な民族が入れ替はり立ち替はり現れては消え、或いは血を混じり合はせていつた。そのあまたの地霊（ゲニウス・ロキ）とも言ふべきものがその息づきを、赴く先々の土地で旅行く者にそこはかとなく感じさせ、往き去つた日々の光を照り返す。をりふしの矚目（しょくもく）の数々に思ひはめぐり、歩みを凝らせる。

アイルランドや英国各地に残る新石器時代の巨石遺構は古代イベリア人の残したものである。例へばウィルトシャーのエイヴベリの巨石の環状列石、或いはペントレ・イヴァン。後者ははるばるとストーンヘンジ構築のために、約三百キロの道のりをソールズベリまでブルーストーンの巨石を運び出していつた石切場だつた南西ウェールズのプレセリ丘陵の一角にあり、西の方にはマネス・カルニングリの丘（1138米）が優美な線を南北に伸びやかに広げてゐる。プレセリ丘陵はあのマーリンとアーサー王のケルト伝説のゆかりの地でもある。

重さ十六トンを超える楣（まぐさ）石が、今にも崩れ落ちさ

ペントレ・イヴァン
このドルメンは通常とは異なり南北に配置されてゐる。後方の山はマネス・カルニングリ。（写真：筆者）

うな微妙な平衡を保つてゐるこのペントレ・イヴァン（イヴァンの村の意）は、紀元前三千五百年頃に築かれた奥(おく)つ城(き)であり、その入口だけがぽつんと、この緩やかに稜線の波打つ丘陵に残つてゐるのである。或る程度整つた形で残つたものより、現代の生活を突き破るやうに露出して取り残された部分的な遺跡の方が、却つて一層霊威を感じさせる。

新石器時代の人々は日常生活を営むにも、巨石構築物を造営するにも、その道具を作る材料となる燧石(すいせき)の採掘は、重要な仕事である。現在イギリスには十箇所しか燧石鉱は確認されてをらず、形として残つてゐるのはそのうち六箇所のみである。ケンブリッヂから車で北東方面に一時間半ほど行くと、セットフォードの森にグライムズ・グレイヴズがある。これがその六つの燧石鉱のひとつである。最初に掘られたのが紀元前三千年頃、最後の採掘鉱が紀元前二千年頃で、ストーンヘンジが造営された時代とほぼ重なる。

ここにはあまたの窪みが八ヘクタール近い野原となつて広がつてゐる。グライムズ・グレイヴズといふ地名はアングロ・サクソン由来のもので、古代イベリア人の燧石鉱は、五世紀以降入つてきたアングロ・サクソンによつて、彼らの神であるグリムの採石場と名付けられたのである。

1914年に発掘された「ピット1」と呼ばれる立坑に一般者が入ることができる。英国の燧石鉱で見学ができるのはここだけである。地上で直径十米ある穴も、徐々に狭まつて底では三・六米になる。この穴をヘルメットを被つて狭い梯子を伝つて降りてゆくのである。深さは十九米になる。底では更に四方八方へと横穴が延び、隣接する立坑に通じてゐる。新石器時代人はこのやうな穴で、赤鹿の角を使つて燧石を採掘してゐたのである。

立坑に入る前にビジター・センターで事前の諸注意をした係員の青年は、穴から戻つてくるとおしやべりを始めた。青年は、ブーディカがコルチェスター襲撃のために出撃したのは、このあたりからだと、この土地の訛りのある言葉で、いかにもお国自慢をするかの如く、まるで昨日今日の出来事のやうに楽しげに話してくれた。

言ふまでもなく、ブーディカは今日イースト・アングリアと呼ばれるノーフォークとサフォーク一帯に住んでゐたケルト人の一部族であるイケーニー族の女王として、ローマ人の支配に反旗を翻し徹底抗戦した女傑である。イケーニー族の王であつた夫プラスタグスが死去した後、正式に王が選ばれるまで摂政役を務めてゐた。紀元43年にクラウディウス帝がブリテン島をローマ帝国の版図に組み入れ、イケーニー族も王国と財産を没収され、王族は奴隷扱ひされつつあつた。

あまつさへ、民衆を服従させる見せしめとして、ブーディカはローマ人の役人と、自分の部族の人々の面前で素裸にされて鞭打たれ、二人の娘達も虐待を受けたのであつた。領土を奪はれた上、許し難い辱めに晒されたブーディカは、コルチェスターを中心とする今日のエセックス一帯に住んでゐたケルト人のトリノヴァンテス族を初めその他の部族の支援をも受けながら、自分の元に集結するイケーニー族の兵を率いて、先づは当時カムロドゥヌム（ケルトの軍神カムロスの砦の意）と呼ばれたコルチェスターを襲撃したのであつた。紀元60乃至61年のことで、ローマではあの悪名高いネロが帝位にあつた。ブーディカ三十歳位の時の蹶起である。

カムロドゥヌムは当時ブリテン島におけるローマ人の最初の首都だつた。しかも自分と娘に辱めを加へたローマ軍兵士達の本拠地がこの町にあつた。イケーニー族の居住地境界の南側にあるこのローマ人の拠点を襲ひ、まだ築後六、七年しか経たないクラウディウス神殿もろとも、瞬く間にこの町を炎上させた。

コルン川のほとり、小高い丘の上にあつたその神殿の跡には、千年後の1080年頃にノルマン人が城の本丸を築いた。ノルマン様式としては英国最大の本丸として今日その姿を留めてゐる。本丸の基部にはクラウディウス神殿の基礎が今なほ残り、それを垣間見ることができる。今この城はローマとイギリスに関する考古学博物館となつてをり、焼け落ちた神殿などの、黒焦げになつた残骸を見ることができる。それを見てゐると、先の青年ではないが、この蹶起の光景がまるで昨日今日の出来事のやうに、幻となつて目交(まなかひ)に浮かび上がつてくる。

ブーディカはその後、ロンドィニウム（今のロン

ドン)、ヴェルラミウム（ロンドンの北西にある今のセント・オールバンズ）へと進撃してローマ軍を打ち倒したが、敗北を喫する最後の戦ひの場は、ヴェルラミウムからウォットリング街道（ローマ人の街道で、今日の道路Ａ５にほぼ一致）を更に北西に進んだ、ミルトン・ケインズにあるフェニー・ストラットフォードであつただらうと言はれる。ブーディカはこのウォットリング街道の戦ひで、態勢を立て直したブリテン島の総督スエトニウス・パウリヌスに敗れ、どこかに逃げおほせたが、戦車に乗つて共に戦つた二人の娘達に毒を飲ませ、自分も同じ毒を仰いで自決したと言はれる。紀元60乃至61年のことである。ローマ兵に捕まれば、ローマに連れて行かれ、凱旋行進で鎖に繋がれて引き回された挙げ句、処刑されることは自明のことであつた。再度、辱めを受けることを潔しとせず、ケルトの名誉を守り、己の矜持を示し、末代にその英名を不朽のものとしたが、その埋葬場所は杳として知れないままである。

好戦的なケルト人は少年のみならず、少女にも剣、槍、戦車の操縦を教へる教練場を設けてゐた。ブーディカもさういふ戦士として育てられたのだ。そもそもケルト人は男のみが戦地に赴くのではなく、家族ぐるみで移動したことからすると、女も武術を身につけることはごく自然の成りゆきであらう。

ケルト人の戦士といふと、もう随分前のことになるが、ローマのカピトリーノの丘の上にある美術館へ、ひとつの彫像を求めて足を運んだことを思ひ出す。護身の魔力があると信じられたケルト人特有の頸環トルクをつけ、これ又ケルト人特有の石灰を髪の毛に練り込んで髪を後向きに逆立てた勇士の、無念に死にゆく絶妙の一瞬を捉へた『瀕死のガリア人』の大理石像を見るためだつた。小アジアのペルガモンが前三世紀末、ガリア人に対する戦捷を記念して建てた群像の一部で、青銅製の原作のローマ模刻である。この群像には『ガリア人とその妻』も含まれ、妻を剣で殺して、自分もその剣を頸根に突き立てて自決せんとする姿が表現されてゐる。この方はローマのテルメ美術館にローマ模刻がある。ケルト人が家族連れで戦地に赴いたことがわかる。

三百六十余年、ブリテン島を支配したローマ軍も、ゲルマン民族の大移動を境に大陸の領土の守りに重点を移すために、西ローマ皇帝ホノリウスは409年に軍を最終的に撤収してブリテン島を放棄した。この五世紀にその後はアングル人、サクソン人、ジュート人がブリテン島に住み着くやうになつてゆく。この新たな侵入者とケルト人との争ひがアーサー王伝説を生み出しゆくが、アーサー王の宮廷はカメロットにあつた。このカメロットは今日のウィンチェスターだと言はれ、ここは元々ウェンタと呼ばれたローマ人が要塞を置いた町、これが今日の町の名の由来となつてゐるのだが、ウィンチェスターを都とするサクソン人の古王国ウェセックスの有名な王は、言へば更なり、アルフレッド大王である。ヴァイキングが最初にブリテン島を襲つたのは、『アングロ・サクソン年代記』によれば、リンディスファーン修道院を襲撃した793年といふことになつてゐる。因みに、ウィンチェスターが初めて襲はれたのは、同年代記によれば860年である。

リンディスファーン城
ヘンリー八世の宗教改革により廃棄されたリンディスファーン修道院に使われてゐた石を利用して1550年に築城し、北の守りとした。（写真：筆者）

アルフレッド大王は在位中（871～899年）、ヴァイキング撃退に尽力したが、やつと878年の決定戦に勝ち、ヴァイキングと条約を取り交はし、「デーン・ロー」と呼ばれる取り決めをした。イングランドの東部と北部にヴァイキングの居住を許可するもので、この地域を又デーン・ローと呼んだ。

スカンヂナヴィア半島とユトランド半島を居住地とするヴァイキングの略奪と交易が、800年頃から1050年頃まで猖獗を極めたのは、フランク王国カ

ロリング朝のカール大帝（在位768～814年）の死去と関はりがある。大帝は断固とした対決姿勢でこの略奪者達の排除に臨んでゐたのだが、その死後はカロリング朝の衰頽と崩壊で抑へきれなくなつてしまつたこと、更にはクノール船など、ヴァイキング側における優れた船の開発にあつたと言はれる。

さて、コルチェスターから北東方面に、直線距離にして四十キロ足らずの地、サットン・フー（Sutton Hoo、Suttonは南の町、Hooは高台の意）で、1939年に貴重な発見があつた。今日一号塚呼ばれる最大の塚から、船が朽ち果てた姿で発掘されたのである。船葬墓である。その土地の所有者E. M. プリティ夫人が夫の死後、考古学者に依頼して一群の塚の発掘をしてもらつた結果であつた。ヴァイキングが跳梁跋扈し始める、約二百年前、そしてローマ軍が去つてからも約二百年後、即ち七世紀のものと推定されてゐる。塚はどこも盗掘に遭つてゐたが、幸ひこの一号塚は賊が掘るところを間違へたため、盗掘の被害を免れた。

ところで、英国には八世紀初頭に成立したと見なされてゐる叙事詩『ベーオウルフ』があるが、この説話はアングル人が英国にもたらしたもので、物語それ自体はスカンヂナヴィア人に関するものである。この叙事詩の「序詩」にはデーン人の王シュルド王の船葬が荘厳に語られてゐる。船は武器、甲冑、刀剣、胴鎧で飾られた上に、数々の財宝が積み込まれ、帆柱の脇に安置した王の胸にはあまたの宝物が載せられ、王の頭上には王権の象徴である金糸の幟が立てられて、海原へと送り出される。この寂寞としながらも厳かな光景は読む者に忘れ難い印象を残す。

この叙事詩に語られるやうに、北欧の社会では、ヴァイキング時代（800～1050年）よりも前から要人の遺骸は船に乗せ、火を放つて送り出す風習があつた。サットン・フーは、デベン川の河口から十五キロ程の上流の左岸の丘の上に位置する。全長約二十七メートルの、四十人の漕ぎ手を収容するその船は、その川から丘の上へと引き揚げられたのである。ヴァイキング時代の船も漕ぎ手の数は普通四十人ほどで、航行困難な場合はかなりの距離でも、丸太を転（ころ）にしたり、漕ぎ手達が担いだりして船を移動したものである。サットン・フーの丘に船を運ぶこと位、いともたやすいことであつたらう。

サットン・フーの最初に発掘された一号塚の船の中央部の船底に、遺骸は安置されてゐたが、酸性土壌のために骨さへも溶けてしまつたやうで、遺骸の痕跡は失はれてゐたが、埋葬者の身の回りの品々が残つてゐた。即ち、兜、楯、斧、剣、槍、鎖帷子、銀器、角の杯、大鍋、桶、ビザンティンの鉢と匙、ビーバーの革袋に入れた竪琴、衣服、靴等々である。

船葬と副葬品は埋葬者とその住民の出自がスカンヂナヴィア系であることを示してゐる。先に挙げたデーン・ローを初めとして、イギリスの各地には、ヴァイキングの町であることを示す -wick や -wich の語尾を持つ地名が多くあり、殊にヴァイキング時代にスカンヂナヴィア人があまた植民してゐたことは、何ら珍しいことではなく、周知のことである。しかし極めて適応力に優れ、植民しても瞬く間に現地に融け込んでいつたスカンヂナヴィア人が、サットン・フーにおいて船葬という形でその文化を明確に示したことは極めて珍しく、それは見る者に驚きの目を瞠らせる。

例へば、ヨークもローマ人が去つた後、九世紀末、デンマークのヴァイキングが住み着いた町である。彼らはその町をヨールヴィーク（Jorvik、種馬の入り江の意）と呼び、それが今日のヨークの名の由来である。その遺跡が1976年から81年にかけて発掘調査され、出土したおびただしい遺物を基に、今日「ジョーヴィック・ヴァイキング・センター」として公開され当時の生活の様子が再現されて、つぶさにその生活振りを見ることができることは、貴重な体験である。しかし船葬墓のやうなものはない。

ヨールヴィークとは違つて、サットン・フーの遺物はスカンヂナヴィア人の遙かな活動の広さを暗示してくれる。船葬墓といふ英国では極めて異例の遺跡から出た兜は、優れて奇異な美しさを見せる遺物で、現在大英博物館に展示されてゐるが、この兜の様式はスウェーデンのヴェンデルやヴァルスヤーデで出土したものと同系統のものであり、サットン・フーとスカンヂナヴィアの繋がりの深さを、船葬墓と共に示してゐる。これにもましてビザンチンの鉢や匙が一層興味を呼び起こす。更に匙にはギリシア文字が刻まれてゐる。これはビザンチンとの交易の

証である。

ヴァイキング時代のヴァイキングの最終目的地はコンスタンチノープルであつた。その通路は二つあつた。ひとつはフランス、イベリア半島沿ひに進んでジブラルタル海峡を抜け、地中海を渡つて帝都に辿り着く航路であり、今ひとつは、現在のラトビアのリガ湾の奥の川から遡り、いくつものロシアの川や湖沼を縫つてドニエプル川に入り、それを下つて黒海に至れば、コンスタンチノープルはもう一息のところにある。但しこの東方の通路を辿る北欧人はヴァレーグと呼ばれた。同じ民族でも西方に赴く者達はヴァイキングと言ひ、呼称が違つた。

先にヴァイキングは適応力があり、現地にすぐ馴染んだことを述べた。一例を挙げれば、あの有名なノルマンディー公ウィリアムは、1066年にブリテン島征服を果たしたが、その先祖、即ち初代ノルマンディー公ロロ（860年頃～932年頃）は、ヴァイキングの首領で、ブリテン島、フランドル、フランスを荒らし回つた末、サン・クレール・シュル・エプト条約でノルマンディーをシャルル三世から封土として得た。ここに入植したヴァイキング達は瞬く間に完全にフランス化した。その結果、ウィリアムが征服したブリテン島にはフランス文化が持込まれ、英国はフランス語が公用語となり、英語は下層民となつたアングロ・サクソン人達だけの言葉となつた。ヴァイキングの適応力は、皮肉にも約三百年間にわたつて英国の公の場から英語が消えるといふ結果を、副次的に齎(もた)らすことになつた。

東方航路を行つたヴァレーグも適応力は当然同じことであり、西欧においてヴァイキングがよく傭兵となつたやうに、略奪と交易で金儲けするだけでなく、略奪で見せるその勇猛さを見込まれてコンスタンチノープルでも傭兵となり、現地に馴染みながら富を蓄積し、帝都との関はりを一層深くした。

ヴァイキング時代にはかうした通路が定期航路化したが、言ふまでもなく航路は古くからあり、スカンヂナヴィア人の文化はビザンチンから多くの影響を受けてゐる。ヴァイキング時代よりも二百年早いサットン・フーのビザンチンの鉢や匙も、東方航路を経て渡つてきたのであらう。

東方航路はこの航路の他に、フィンランド湾の奥からラドガ湖を経てボルガ川へと水路を辿り、ボルガ川からカスピ海に出て南端のゴルガンに達する経路もあつた。この通路はその過程で中国へと通ずる隊商路と交はつてゐる。そのやうな繋がりから、中国の仏像がスカンヂナヴィア半島南端の東側にあるゴトランド島から出土してゐる。

ベルティル・アルムグレンといふ研究者は、六世紀のスカンヂナヴィア人の騎乗の兵士の出立ちと、ヴァイキングのそれとを再現した。前者は先に言及したヴェンデル、ヴァルスヤーデ、サットン・フーの出土品から再構成したのである。その結果わかつたことは、ヴァイキングの騎兵の軍装は、アジアの騎兵に似てゐることだつた。このことは、通商路が定期的になつたヴァイキング時代に至つては一層多く、東方航路から中央アジアの有益な物を積極的に取入れてゐることを示してゐる。

ヴァイキングの騎乗といふと、違和感を覚えるかもしれないので、一言付け加へておけば、ヴァイキングは船だけを用ゐたのではない。船には甲板がないが、馬を船底に寝かせて綱で縛つて連れて行つた。川の中洲などに船を係留して基地とし、そこから馬で町や村を襲つて略奪し、その後は家々に火を放つて、追手の追跡を阻んだのである。馬が機動力となつた。

サットン・フーの船葬墓と遺品は、コンスタンチノープルのみならず、アジアとも更に深い繋がりを結んでいつたスカンヂナヴィア人のその後の活潑な活動の曙を垣間見せてくれるとともに、その背後にアジアの影をおぼめかせてゐる。そもそも騎乗自体、遊牧民の生活形態の文化的一面であつて、北欧人のそれではなかつた。

ブリテン島はローマ人にとつて気候も土壌もいいとは言へぬ辺境の地にすぎず、それ故に本国の危機に際しては惜しげもなく捨て去つたが、命はなほも土に層を重ねて、薄い日の中をさまよひ歩く異国の者にさへ、あまたの地霊の声が呼びかけ、或いはふと行き会ふ人の目から往き去つた人が語りかけてくる。

街で見かけた英語

国際コミュニケーション学部
塚　本　倫　久

夏休みや春休みを利用して語学研修や旅行に出かける学生はたくさんいると思いますが、そのような機会にはぜひ授業や名所見物以外にも滞在中に出会うさまざまな英語に目を向けてみてください。きっと有益な表現がたくさん見つかると思います。私は旅行するときいつもカメラとメモ帳を持ち歩いて、面白い表現や看板などをカメラに収めたり、気のきいた表現を耳にしたときはメモを取り、宿に帰ってから辞書で確認しています。このエッセイは私がイギリスを旅して目にした英語を写真とともに紹介する言葉の field trip です。

イギリスへの旅の始まりは空港でのチェックイン、一緒に行く友達がいれば待ち合わせ場所を決めておかなくてはなりません。この「待ち合わせ場所」に相当する英語ですが、空港には“meeting point”“meeting place”という表示があります。

写真はセントレアで撮影したもので、両方の表現が日本語と英語で併記されています。“meeting point” はよく見かける英語ですが、ジーニアス英和辞典（４版）以外の英和辞典には載っていないようです。かなり定着している英語ですから他の辞書にも記述がほしいところです。“meeting point”は比較的最近使われるようになった英語で、イギリス人に尋ねると待ち合わせ場所にはたいてい大きな時計があるので昔はよく Let's meet under the clock at Paddington station. というような表現を使ったそうです。このように街で見つけた表現をもとにイギリス人との会話が弾むこともあります。そこで旅行中に注意深く観察していると駅のホームの自販機には vending point、お店では商品を受け取る場所で collecting point という表示を見つけました。— point は何かの目的で人が来る場所に用いられていることがわかりました。

今春、研究調査でイギリスに出かけた頃、日本ではある洋菓子メーカーが賞味期限切れのケーキを販売し閉店を余儀なくされたというニュースが大きく報道されていました。ロンドンのスーパーマーケットで牛乳を買った際に賞味期限の表示が目に留まり、その部分を切り取っておきました。

どうですか？日本と違いますね。“Best before 29/03/07”一番おいしく飲める期間を過ぎたらどうするかは消費者の判断にお任せしますよ、という表示にも解釈できます。一方、日本の表示は期限を厳密に定めてこの日を過ぎたら飲まないでください、という製造元の責任を重視するというふうにも解釈できます。表示の違いには国民性が出ているように思いますがいかがでしょう。ちなみにこの表現は辞書にも出ています。でも実際にイギリスで牛乳パックを手にして確認すると「なるほどそうか！」と実感が湧いてきます。

イギリスと一口に言っても普通それはイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド

がひとつになった連合王国（United Kingdom）を指しています。今でもそれぞれの民族意識がさまざまな場面で顔をのぞかせるのはfootball（イギリスではサッカーのことをフットボールと言います）ばかりではありません。ウェールズに行くと道路標識は英語とウェールズ語と両方で書かれています。もちろんウェールズでは英語が通じますが、現在約20パーセントの人がウェールズ語を理解できるそうです。

写真はイギリスとウェールズの国境で撮ったものです。上が英語、下がウェールズ語です。お年寄りに注意を促す道路標識にも英語とウェールズ語が書かれています。意気軒昂なお年寄りが多いイギリスでは腰のまがった老人が描かれているこの標識が不評だというのを聞いたことがあります。

次に街角でみかけた表示を紹介しましょう。日本ではこの夏、参議院選挙がありましたが、次の写真はイギリス総選挙のときに投票所（polling station）の前で撮ったものです。今世紀最も若い43歳で英国の宰相となったトニー・ブレアは今年6月に退陣しました。下の写真はブレアがその前の首相であるジョン・メイジャーと政権を争ったときの選挙ポスターです。ブレア率いる労働党が保守党を攻撃するポスターには「税金の値上げはもうたくさんだ、保守党はもうたくさんだ」というスローガンが当時のメイジャー首相の写真とともにうまく表現されています。日本では政権政党を攻撃するこのようなポスターは見かけませんが、イギリスでは普通のようです。また、現在では政党の政策を示したマニフェストという言葉は日本でも一般的になりましたが、イギリスでは総選挙が近づくと書店で各政党のマニフェストを示したパンフレットが2ポンド（500円ぐらい）で販売されていました。

地下鉄（tube）のホームで飲み物や菓子などを売っている売店にはgrab a biteという表示が見

えます。「急いで軽い食事をする」ことを grab a bite（to eat）と言います。売店の表示にはぴったりですね。また、スーパーマーケットでは Loose Tomatoes という表示を見つけました。真っ赤に熟したぐちゃぐちゃのトマトではありません。ばらで一個一個買うことができるという意味です。英語圏で生活するときにはこの loose（ばら売りの）の意味を知っておくと役に立ちます。

パブではよく Free House という英語を見ます。「お酒がただで飲める」わけではありません。特定のビール会社の傘下にないのでさまざまな各種銘柄を扱っているパブという意味です。パブはイギリス人が最もリラックスして friendly になるところといわれています。お酒の飲めない人は soft drink でも大丈夫。fish and chips や shepherd's pie（挽肉をマッシュポテトで包んで焼いたもの）などイギリス料理を味わうことのできるパブもあるのでイギリスに行く機会があったら是非入ってみてください。

最後の写真は大学町オクスフォード郊外の Park & Ride の標識です。これは愛知万博で日本でも知られるようになりました。イギリスは昔ながらの街並みを保存して狭い道でも拡張工事をしません。そこで郊外に車を止めて city centre（イギリス英語では downtown《主に米語》のことをこのように言います）までの移動をバスに乗り換えます。環境にも配慮したよいシステムです。

海外で生活するとスーパーマーケットで買い物をしたり、銀行でお金をおろしたり、さまざまな場面で生活英語に接することができます。すべてが勉強という精神で貪欲にさまざまな英語を観察してみてください。必ず面白い発見があるはずです。

マイペースな英国人

国際コミュニケーション学部
磯　野　　徹

留学先として英国を選択する日本人は近年非常に多いため、英国の大学に数年間留学していると、様々なバックグラウンドを持った日本人留学生と会う機会がある。例えば、私の場合、政府の派遣で来ていた人もいれば、留学のために会社を辞めて来ていた人もいた。英国での様々な国から来た人たちとの交流はもちろん新鮮であったが、上記のような日本人留学生の人たちとの交流もまた、大学を出たばかりで世間を知らなかった当時の私にはいい経験になった。その中で、大手百貨店を退職して留学に来ていた人の、「ここの国みたいなサービス業だったら、オレは辞めへんかったかもなー」、という言葉を今でも覚えている。英国に行ったことがある日本人なら誰しも一度はあっけにとられる、そのあまりにもマイペースな勤務態度を、一留学生のタウン・センターでのショッピングの経験をもとにお伝えしていこうと思う。

英国東部にあるEssex大学はキャンパスの中に寮が建っているため、ちょっとしたスーパー等はキャンパス内にあるのだが、それでもまとまった買い物となったらやはりタウン・センターへ行くことになる。勉強に疲れた留学生にとっては一時の気晴らしタイムだが、ゆっくりまわろうと思ったら土曜日という選択肢しか残らない。大体の店は5時半で閉店なので平日の授業後では時間がないし、日曜日は終日閉店が普通である。日本と同じ感覚で買い物に行って、ゴーストタウンと化したタウン・センターに呆然と立ち尽くすという経験は、多くの日本人留学生が受ける最初の洗礼ではないだろうか。

そのタウン・センターへは片道15分ほどバスに揺られていくことになるが、バスに乗る前に欠かせないのが小銭のチェックである。1ポンドの乗車賃を払うのに5ポンド札を出したら、「お釣りがないので、次のバスに乗ってくれ」と言われるような国である。特に土曜日は先に述べたような理由でバスも混んでいるので、自分の前に並んでいた2，3人が10ポンド札で払っていようものなら、ほとんどアウトである。日本人の感覚からすると、「200円のバスに乗るのに1000円でお釣りがないって、どういうこっちゃー」とクレームものだが、向こうからしたら、「バスに乗るのに札を出してんじゃねー」という感覚なのだろうか。この話をすると、小銭入れを常に3つ携帯していた友人を思い出す。1ポンド用、50ペンス用、20ペンス用の3つであるが、1ポンドはバス、50ペンスは自動販売機、20ペンスはランドリーに、という感じである。自動販売機はお釣りがなくて“Exact money only”になっていることが多いし、ランドリーの両替機は常に“Out of order”なので、非常に賢い方法だと感心したのを覚えている。

さて、無事にタウン・センターへ到着したらまずは腹ごしらえである。せっかくタウンに来たのだから、大学内の食堂で食べるものとは違う、できれば日本で食べていたものを食べたくなる。しかし、ロンドンとは違い、地方のタウンには日本食レストランなど当然ないので、結果的に、マクドナルドかケ

英国東部にあるEssex大学

ンタッキー・フライドチキンの２択になる。店に入ると、その値段の高さ以上に、店員の手際の悪さと接客態度に驚かされる。店が混んでいて待たされるのは仕方ないが、空いていても待たされるのが英国である。なぜなら、店が空いていたら空いていたで、店員同士がおしゃべりに夢中で、そのおしゃべりが一段落してようやく、“May I help you?”となるからである。イライラさせられっぱなしの日本人としては、現地の人はイライラしないのだろうかと思い観察していると、店員がおしゃべりしている間、メニューを見ながら何を注文するか真剣に考えて、店員のおしゃべりが終わったころに、「それじゃ、〜をちょうだい」という人が多いことに気がついた。私の場合、ファーストフードで注文するときは、カウンターで注文するものを選んでいる間店員を待たせているのが申し訳ないので、少しはなれたところで考え、注文するものが決まってからカウンターに向かうのだが、この行動パターンは英国では合わないこともわかった。「客を前にしての店員のおしゃべりは、客に考える時間を与えてあげているのかもしれない…」。少々無理があるのは承知のうえだが、こんな風に考えることで待たされるイライラも少しは和らいだ。逆に、今では、カウンターに行くとすぐに、「何になさいますか？」と聞いてくる日本人の店員に対して、「もう少しゆっくり考えたいから、おしゃべりでもしていてくれー」と心の中で思う自分がいるから不思議である。

よく言えば「齷齪していない英国人」となるが、客を待たせるというのはやはり世界的に評判が悪い。そして、このようなマイペースな接客はファーストフード店のような場所でのみ見られるかというと、そうでもないから困ったものである。銀行で順番待ちをしていて、自分の番がようやくまわってきたので開いている窓口に向かったら、目の前で「シャッ」っと窓口のカーテンを閉じられてしまったことがある。一瞬わけがわからずに目が点になったが、どうやら、その行員の就業時間が終わったので窓口を閉じたらしい。彼女としては、「給料分は働いたので」ということなのだろうが、こちらからすれば、「客が目の前にいるのに」、と文句の一つも言いたくなるというものである。

タウン・センターにて

万事がこんな感じで、イライラしつつもタウン・センターで買い物を済ましていくわけだが、中には日本と同じような接客サービスをしているところもある。それが“hairdresser's shop（美容院）”であり、そこで髪を切ってもらうことがタウン・センターへ行く目的の一つでもあった。日本では美容院など行ったことがない私だが、髪を洗わずに切り始め、切った髪が服の中に入り放題、という英国の散髪屋のスタイルはどうしても耐えがたく、少々贅沢ではあるが、英国滞在中は美容院を利用していた。ここでも待たされることには変わりはないが、見習いらしき人が丁寧に髪を洗ってくれるし、美容師さんが来るまで髪を乾かしながら待っているとコーヒーも出してくれる。そして散髪の時は、さすがに女性客が中心だけあり、どのように切ったらいいのか事細かに聞いてくる。英国において、それだけ丁寧に客と向き合ってくれることはうれしくもあるが、留学したばかりの日本人としては英語で色々と説明しないといけないので試練の場でもある。そもそも、日本で床屋へ行ったときだって、「いつもぐらいに」としか言わない私である。英語で細かい注文を出せるはずもなく、また細かく言うつもりもない。適当に切ってくれればいいのだが、英語ではなんと言うのだろう、としばし悩む。その挙句、“I don't care.

I will leave it to you.”と答えたらとても困った顔をされたので、これではマズイと考え直す。結局、“I had my hair cut about a month ago, so...”と言ったら、向こうが、「それだったらこんな感じね」と色々と提案してくれたので、後はずっと“Yes, Yes”で乗り切った。散髪が終わった後はきっちりレジまでエスコートしてくれ、「へー、そこまでしてくれるんだ」と驚いたのを覚えている。美容師さんとしてはチップをもらう目的も兼ねているので、チップを渡すと、「私、あなたの髪が気に入ったからまた来てね」と言ってくれる。お世辞とはわかっていてもどうしても顔がほころんで、英国にいる間はずっとそこを利用することになった。

以上の話は、私が初めて英国に留学した1996年ころの話である。その後、2001年までの英国留学の間に、接客サービスにも段々と改善がみられるようになった。大手スーパーのテスコが24時間営業になったし、日曜日に店を開くところも増えた。ここ数年、英国に行く機会は残念ながらないが、最近はどうなのだろうか？上記の美容院のような接客をする店が段々増えているのだろうか？私の周りにいる英国人を見ていると、やはり英国人は基本的に自分のペースで物事を進め、そのペースを相手側にあわせるのを嫌う人が多い、と思う。そのようなスタイルでいることが、常に相手に合わせることを第一に考えがちな日本人からすると、「余裕がある」とある種の憧れを抱く一因であろう。よって、英国のファーストフード店に入ってキビキビと働く店員を目にしたとしたら、客としてはうれしいのと同時に、日本人としてはすこし寂しさも覚えるかもしれない（心配しなくとも、ファーストフードの接客は10年前のままであることは確信しているが）。

ロレンスとケルト

非常勤講師
川　名　真　弓

約一万年前、最後の氷河期が終わり氷冠が北に退却したため、当時陸続きであった大陸からブリテン島へ様々な樹木が入ってきた。最初にカンバ類、次に松などの針葉樹、続いてハンノキ、ハシバミ、ナラ、ニレ等の広葉樹が入ってきた。数千年前までブリテン島は、これらの原生林に覆われていた。その後人口増加とその人口を養うための農業の定着により、森林は伐採されていった。しかしこれらは遅々たるものであった。その後のブリテン島における森林伐採を加速させたのは、「ローマ帝国」と「キリスト教」であった。ブリテン島は「統治」という名の下にローマ化され、修道院建設のためにその森林は次々と伐採されていったのであった。これはビードの『英国国教会史』の一節に見られる。このローマ帝国とキリスト教という「文明開化」の光が当てられた頃、ブリテン島に住んでいたのはケルト人と呼ばれる人たちであった。彼等は紀元前数世紀頃、現在のドイツ南部の周辺域に発祥した人たちの総称である。彼等はアルプス以南の文明化されたギリシア人から、「野蛮な」を意味するケルトイからケルト人と呼ばれたのであった。彼等は森の懐に抱かれ、自然の循環を敏感に感じ取り、自然と調和して暮らしていた。しかし決して野蛮ではなかった。高度な技術を要する金細工や鉄製品を作っていた。車輪や樽を発明したのもケルト人と言われている。まためくるめくほどの法悦をもたらす渦巻模様に代表される美術をも創作していた。ローマ帝国に匹敵するほどの勢力がありながら、彼等は帝国を作ることはなかった。人間性を剥奪する国家よりも、瑞々しい感性を持ち合わせた個々人の生活を大切にしていたからである。また古代ケルト人はあえて文字さえも持たなかった。語られる言葉に宇宙的な大霊が宿ると、感じていたからであった。これがイギリスにおける口承伝承へと通じている。

六世紀から八世紀にかけて、ローマ化された後でもブリテン島にはいくつかのケルト人の小王国があった。その一つである「エルメット」は現在のヨークシャー周辺域にあたり、それはロレンスの故郷ノッティンガムと、『チャタレー夫人の恋人』の舞台となったダービーシャーに隣接した区域である。この周辺域には現在でも、泉に供物を捧げるなどのケルトの風習の名残が見られる。

文明批評家マシュー・アーノルドはオックスフォード大学での講義録を基にして、『ケルト文学の研究』を著した。アーノルドはその中で、イギリス国民の精神構造の内奥に潜む見逃しえないケルト的底流を詳細に述べた。そしてその国民性には「アングロ・サクソン」「ノルマン」「ケルト」という三つの文化の伝統があり、特にケルトの詩的伝統が古くからあったイギリスは、豊かな芸術の才と感情表現があると結論づけたのであった。同様のことをルナンやイェイツなどが、述べている。

アーノルドはケルト人の特徴として、次の二点を挙げている。一つは自然との霊的交わりであり、もう一つはケルトの王妃や女神に代表される生命力である。前者はロレンスに後者はロレンスの妻フリーダに顕著に見られる。ロレンスは恩師の妻フリーダと駆け落ちし、その翌朝に「切断」という詩を書いた。その一節に「トゥアサ・デ・ダナンよお願いだ。彼女の眠りを支配しておくれ」と頼む箇所がある。窮地に陥ったロレンスがすがる思いを託したのが、ケルト神話におけるトゥアサ・デ・ダナンであった。トゥアサ・デ・ダナンとは、アイルランドにキリスト教が布教される際に地下に潜らざるを得なかったケルトの神々である。彼等は知恵の神々であり、時々地上に現れて悪戯をする妖精でもあった。シェイクスピアの作品に登場する妖精は、このトゥアサ・デ・ダナンである。イギリスにはアングロ・サクソン固有の神話がなく、人々はアイルランドのケルト神話を併用して信じていた。ロレンスもその一人であった。ロレンスは博学の人であったが、知識として知っていたからケルト神話を用いたのではなく、ロレンス自身がケルト人の気質を持ち合わせていたので、ケルト神話の神々を自身の神としたのであろう。ロレンスはこのトゥアサ・デ・ダナンを「闇の神」と呼び、後の作品に登場させている。いくつか挙げてみよう。

トゥアサ・デ・ダナンよ、
　　私のそばにいておくれ。(『カンガルー』)

トゥアサ・デ・ダナンは西の海の下にいるのかもしれない。しかし彼等は未だに生き続けている血を持ち、決して黙ってはいないのだ。さあ彼等が再びやってきて、新しい関係を作るのだ。(『翼ある蛇』)

ロレンスが神と崇めるトゥアサ・デ・ダナンには、ケルト神話における壮大な謎が託されていた。それは「年老いた王は若き王にその席を譲らなければならない」というものである。この「夏の王が冬の王を打ち負かして夏の女王を奪う」という構図は、アーサー王とランスロットとグウィネヴィア、トリスタンとイゾルデ、ロビンフッドとマリアンの構図である。五月祭で行われるロビンフッドの剣の所作は、それを物語っている。

ランスロットとは、アーサー王の妃グウィネヴィアを危急の際に助けるりりしい騎士であり、ケルト神話におけるルグ神をその名の由来とする。ロマンスにおける騎士道にはケルトの感性があると、アーノルドは説いていた。フリーダは明らかにケルトの王妃や女神の伝統を体内に持ち合わせていた。『カンガルー』の中で「本物の貴婦人、あこがれの女王様だ」と述べられている。ロレンスがランスロットを、フリーダがグウィネヴィアを、そしてフリーダ

D.H. ロレンス

の夫であったウィークリーがアーサー王を、現実の世界で演じたと捉えることができる。ケルト神話のオシアン・サイクルに、牝鹿サイブの再生と貴婦人の姦通という二つのテーマがあり、ロレンスはこれを用いて『チャタレー夫人の恋人』を執筆したのであった。執筆したというよりも、ケルトの気質を体内に持ち合わせていたので、樹木によって書かされたと言ってもよいであろう。

ロレンスは青年の頃、「オークの樹の下で自身の魂が湧出する」と詩に唄った。最初の作品『白孔雀』はブリテンの地霊から物語が始まり、「私は私自身に向かって森の精たちが、森の端から私を探していると、言って聞かせた。」と語った。人生の半ばでケルトの女神のごときフリーダと出会い人生の生を充足した。『翼ある蛇』では、「ヨーロッパはトゥアサ・デ・ダナンの時代に戻らなくてはならない」と進言した。最後の作品『チャタレー夫人の恋人』でケルト世界の再来を予言した。「私はキリスト教布教以前のケルトのきらめきが大好きです。」と、手紙にしたためたこともあった。「人間の魂は暗い森である。」と語ったロレンスは、明らかにケルトの気質を持ち合わせていた。アーノルドが説くように、イギリスにはケルトの伝統が根強く息づいている。ロレンスは生涯をかけて、イギリスにおける「ケルトのやさしさ」を追求した人物であった。そしてロレンスはシェリーの言う「世界に非公認の立法者である詩人」であり、ブレイクの言う「あらゆるものを見抜くドルイド」でもあった。

冬の王
（アーサー、ウィークリー）

夏の王
（ランスロット、ロレンス）

夏の女王
（グウィネヴィア、フリーダ）

英語　e-Learning をバージョンアップ！

学内で利用されている英語 e-Learning が 6 月からバージョンアップされています。画面のデザインが一新し、主に新 TOEIC® 対応や問題数の増加が図られました。以下の 2 コースがありますので、英語のレベルアップをめざして、大いに活用してください。

□ **スタンダードコース**（名称に変更はありません。）

対象者：TOEIC® テストスコア 300 ～ 800 点台の方

◎ 問題数が増加しました。バージョンアップ以前の学習履歴は残っていますが、問題数が増加したので、進捗率が以前より減少しています。

このコースは新 TOEIC® に対応していません。

□ **初中級コースプラス**（旧名称：初級・中級者のための TOEIC® テスト スコアアップコース）

対象者：TOEIC® テストスコア 400 点未満で 500 ～ 600 点突破を目指す方

◎「演習」・「テスト」の部分が新 TOEIC® 対応です。

（注）バージョンアップ以前に利用した「演習」・「テスト」の学習履歴は残っていませんので、ご注意ください。

☆ 学習を始めるには「利用申請」が必要です。

申し込み先：３号館１階　LL 自習室（学生証持参）

英語 e-Learning 専用の「アカウント」と「パスワード」を発行します。

※料金は必要ありません。

豊橋語学教育研究室

近代日本と日本語の悩み
「応」から「可」への書き換え

経済学部
葛谷　登

昨年末に弁護士のQ先生の知遇を得ました。Q先生はかつて大学の教壇に立ち、法律ではなく社会科学に関する講義を担当されていた大変見識の広いユニークなお方です。わたくしは年末来、折々に法律の初歩の初歩について教えていただきました。この世の常識と法律の世界の常識がいかにかけ離れているのかを痛感しました。近い将来、裁判員制度が導入され、一般市民も裁判に参加することになりますが、恐らく同様のとまどいを味わうことになるでしょう。ただ一般市民が法律の知識を身につけるにつれて、この世の常識が法律の世界の常識に近づいて行くのではないか。そうすると、この世も法律の常識が幅をきかせることになりますから、日本社会はいま以上に大きな変貌を遂げるはずです。

さて、Q先生はお話の中で『旧法令集』のことに触れられました。弁護士という職業柄、古い法律にも通じていなければならないのだそうです。先生は有斐閣から出ている我妻栄編の『旧法令集』（一九六八年）を書架から取り出して、四三三頁を開かれました。そこにはこう記してありました。

第四章　不論罪及ヒ減軽
　第一節　不論罪及ヒ宥怒減軽
第七七条
③罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ従テ論スル事ヲ得ス
（傍点筆者注、以下同じ）

Q先生はこの条文を指して、

これは当時、日本が法律制度の整備のために参考にした西洋の法律にはない概念です。確か日本の養老律令にあるものだと思います。団藤重光の『刑法網要総論』に書いてあります。お見せしましょう。

と言って、書架にその本を探されましたが、見つかりませんでした。旧刑法は明治十三（一八八〇）年七月十七日に左大臣熾仁親王署名のもとに布告されました。この年の四月には集会条例が定められています。また同年には片岡健吉らが国会の開設を請願しています。明治憲法の公布がその九年後の明治二十二（一八八九）年であり、国会の開設が明治二十三（一八九〇）年です。憲法よりほぼ十年早く刑法が生まれていたのです。

わたくしはQ先生との有意義な歓談の時を終え、大学に戻りました。そして一路、図書館に向かい、書庫に入って先生のところでは見つからなかった団藤重光の本（創文社、一九五七年）を探し当てました。二一九頁に、

「罪本重かる可くして犯すとき知らざる者は、其重きに従て処断することを得ず（二九）」（三八条二項）という規定は･･･同じ理論が妥当する。

とあり、註の（二九）には、

わが刑法第三八条二項は律の系統に由来する。唐律を継受した大宝・養老律では、「其本応レ重而犯時不レ知者。依レ凡論。本応レ軽者聴レ従レ本」とされていた（巻一、条例律下）。これが明治初年に仮刑律（本条有罪名）、ついで新律綱領（名例律下、本条別有罪名）に復活され、旧刑法第七七条三項に受けつがれた･･･。その後の草案ではこの規定は姿を消していたが･･･、現行法にふたたび現れたのであった（二二一頁）。

と記してあります。

ここで京大東洋史『新編　東洋史辞典』（東京創文社）の「唐律疏議」の項目（六三〇頁）に基づいて少し脇道に入ってみましょう。仁井田陞・牧野巽「故唐律疏議製作」年代考（下）」において

日本養老律は唐律並に、律疏によつたことは明らかであるが、その成つたのを養老二年（唐開元六年）とすると、その参考し得べき唐律には、

武徳貞観永徽各律及び、永徽律疏を挙げ得る。…殊に唐に於いて律疏の成つたのは、永徽四年（653年：筆者注）であるから、日本養老律の疏又もその疏に基いゐることは明らかである。

（東方学報＜東京＞第二冊、一九三一年、二〇二頁、二〇三頁）

という記述があります。大宝律（701年）や養老律（718年）は永徽律疏を継承したものであり、従来考えられていたように開元律疏（故唐律疏議、737年）に拠ったものではない（一八四頁）というわけです。団藤先生の解説に間違いはある筈がありませんが、一言触れられると面白いところです。

もう一つ、団藤先生の解説には唐律だけが言及されていますが、明律もまた言及されてもよいのではないかと臆測されます。『新編　東洋史辞典』の「大明律」の項目には、

この「大明律」は日本をはじめ朝鮮・安南の法律に影響を与え、法律上唐律と並んで最も重要なものである。…日本では荻生徂徠が幕府の命により、訓点を付したものを出版したほか、「明律国字解」十六巻を著し、最も有益である。

（五二九頁）

とあります。明治に肩擦り寄せる江戸時代においては明律が当時の法律に深く影響し、またその方面の研究も盛んであったようですから、旧刑法に養老律が直接的に受け継がれたというよりは、江戸時代における明律研究の蓄積があって、それを媒介にして養老律が旧刑法に受け継がれたと考えることも許されるのではないでしょうか。

閑話休題。口語体の新刑法第三八条第二項の条文は次のようになっています。

重い罪に当たるべき行為をしたのに、行為の時にその重い罪に当たることとなる事実を知らなかった者は、その重い罪によって処断することはできない。

（岩波判例基本六法二〇〇六年版、一四二二頁）

口語体新刑法では「重い罪に当たるべき」、旧刑法では「罪本重カル可クシテ」となっています。しかし団藤先生が引用された養老律の文は「基本応レ重」となっています。少なくとも旧刑法を制定する段階で「応」が「可」に書き改められています。

清代に出版された薛允升『唐明律合編』（法律出版社、一九九九年）には、唐律に関しては

本条別有制

…基本応重而犯時不知者,依凡論。

（巻六、名例六）（七八頁）

とあり、明律に関しては、

本条別有罪名

…基本応罪重,而犯時不知者,依凡人論。

（巻一之六）（八八頁）

とあります。明律も唐律と大体同じです。しかし明律には細字で、叔（おじ）と姪（おい）が別々のところで育ったため、姪が叔と知らないで叔に当たる者を叩いて傷を負わせたときは一般の暴力行為と同じに扱うという注が附してあります。これは儒教社会においては君臣長幼の別を基準とした刑罰が前提されており、序列上下位の者が上位の者に罪を犯したときは、序列上同等の者が相手に罪を犯したときより、刑罰が重くなるので、その秩序の上下差を認識することができない状況で罪を犯した場合は、情状酌量の余地を残そうというものです。ですから、旧刑法にこの条文が挿入されたということは、近代的な平等の制度化に明治国家の普請にあたった元勲たちが歯止めをかけようとした意図を背後に認めることが出来るのではないでしょうか。

最後に語学的な問題に入ります。わたくしの乏しい語感では「可」は客観的な条件が整って或ることがらの遂行が許されるという意味合いを持つように思います。他方、「応」は道理として必然であること、当為を表すものであると言えるでしょう。林語堂『當代漢英詞典』は「応」を‘should’に、「可」を‘may, can’に当てています。漢文で「応」を「可」に置き換えることは難しいのです。日本近代の苦悩はここから始まったのでしょうか。曖昧、あまりにも曖昧!!

LL Tea Time

ドイツ留学体験記
～ Meine zweite Heimat ～

文学部　4年
大 谷 美 代 子

2007年2月16日、私は第2の故郷から帰国した。期待と喜び、そして、少しの不安を抱えてドイツに渡ったのが1年前のこととは思えない。私の中にはドイツでの1年が深く刻み込まれている。

留学先は、ドイツのブレーメン。ブレーメンはドイツの北に位置する小さな町である。あの、ブレーメンの音楽隊で有名なブレーメンである。もちろん、町にはブレーメンの音楽隊の銅像もある。留学先の大学は、Hochschule Bremen。ここには、日本語を勉強している学生がいる。私は彼らと同じ学部に所属した。留学中は、日本の文化･経済･社会についての授業と留学生に対するドイツ語の授業を大学と語学学校で受けた。もちろん、どちらもドイツ語だけで授業が進められていくので初めはとても大変だった。しかし、今思い返せばそれもまたいい思い出として残っている。

私はドイツで初めて一人暮らしを経験した。一人暮らしといっても完璧な一人暮らしではない。留学前半は、一軒屋で中国人学生、フランス人学生2名と大家さんとの5人暮らし。後半は、ワンフロアでドイツ人学生とチリ人学生との3人暮らしだった。個人で一部屋を使用し、台所、トイレ、バスルームは共同で使用するというドイツ人学生にとっては一般的な生活様式だ。

様々な体験をしたが、受け取るだけでなく発信者としての体験もした。それは、日本の文化を体験し

上空から見たブレーメンの街並み

てもらおうということで、1回限りの少人数の書道教室なるものを企画、運営したことだ。趣味として長年書道をしてきたとはいえ、ドイツ語で書道体験ゼロの学生にいろいろと説明するのは本当に大変だった。とにかく楽しい思い出としてみんなの心に残って欲しいという思いが強かったことを今でも覚えている。やり終えた後には、大きな達成感を得ることができたし、みんなとの楽しい思い出がまた一つ増えたことに感激した。

そして、 一番思い出に残っていることは、Mona（ドイツ人学生）と過ごした日々だ。他にも多くの学生と色々なことを楽しんだが、彼女との思い出が私には色濃く残っている。Monaは私にできた最初のタンデムパートナーだ。私たちは週に一度、日本語とドイツ語の会話練習をした。他にもサイクリングをしたり、彼女の家で食事会をしたりもした。夏休みには彼女の実家にお泊り会もした。彼女との出会いによって私はホームシックにならなかったのかもしれない。時々は寂しい思いもしていたが、1ヶ月もすれば忙しさと楽しいことだらけで全て消えてしまった。彼女との出会いを今でも本当に嬉しく思う。

当然のことながら、楽しいことばかりがあった1年ではなかった。私の場合は、一緒に留学した2人よりも早い段階でドイツの生活に慣れていたと思う。私は、郷に入れば郷に従えをモットーにドイツ人に成り切ることにしていた。これが功を奏したと思う。そこから学び得たものは、何事にも前向きにチャレンジする精神と自分の意見に常に何らかの根拠を持つということだ。前者は、挑戦せずに後悔するよりも挑戦して後悔しようという精神。後者は、自己主張の場においてただ単に意見だけを言うのではなく、何故そう思うのかという裏づけがあってこそ初めて自己主張ができていることになるという意味である。留学を通して学ぶことができたことは、本当に良かったと思う。今後は、留学で得た新しいものの見方・考え方を活かして、何事にも取り組んでいきたいと思う。

タイで出会った、そして見た！

国際コミュニケーション学部　3年
堀　田　綾　奈

私はタイでたくさんの人に出会った。友達、友達の家族、先生、よく行くお店のおじさん・おばさん、市場の人、寮の管理人さん、旅人･･･数え切れないほどの人たちに支えられて、ほぼ一年365日間を朝から晩まで、タイ人に囲まれて過ごした。そしてこの人たちに囲まれて、たくさんのものを見た。

私はタイのバンコクとチェンマイのちょうど真ん中の県、ピサヌロークという県の大学に通っていた。寮の前には、水牛が気持ちよさそうに水浴びしていた。毎朝、大学の制服に身を包み、友達のバイクか学校の電気バスで教室まで通っていた。学校はとても広くて、初めの方は汗を流しながらよく迷ったものだ。ジャングルのような道で迷ったりもした･･･。でも、そんな時はさすがタイ人！さっと困っている私の前に現れるのだ！私はこんな気さくなタイ人が大好きだった。（しかしこの気さくさ故に、マイペースなタイ人に巻き込まれることも･･･。）

初め、まったく会話も成り立たず英語まじりの言葉とbody languageで一生懸命に会話をしようとした。そのため、勘違いが多かったが、そこはタイ人のマイペンライ（気にしない）の一言でなんとかしていた。とても大変だったが、初めの苦労もあって私のタイ語はどんどん上手になった。たくさんの人とコミュニケーションをどんどんとって、たくさんたわいもない話もした。私自身タイ人になりきっていたのかもしれない･･･。タイダンスもした。これは想像以上に大変で、毎回踊った後はくたくたになって力がもう出なかったほどだ。翌朝には筋肉痛になって、2,3ヶ月後には筋肉がもりもりになっていった。

旅行も頻繁にしていた。タイの物価は安いため、旅行好きの私にはもってこいだった。バスか汽車で行った。バスは便利でクーラーも効きすぎなくらいかかっていた。しかし私は汽車が好きだった。もちろん時刻通りには滅多に来ないし、暑いし、蚊はいるし、トイレも臭い。しかし、汽車では色々な人に出会うことが出来る。日本人ともよく出会った。やはり異国の地で日本人に会うと何だか嬉しかった。何だかとてもローカルなところが私を興奮させたのだ。私はよく知られている観光地というよりも、外国人が誰も知らないようなところへ行くのが好きだった。それは専ら自然が多かった。自然とのふれあい方も日本とは全く違った。川へ行くのにタイ人は水着もタオルもサンダルも何も持っていかない。(持っていく人もいるだろうが、少なくとも私の回りのタイ人は持っていかなかった。) ベタベタになって、帰りのバスでガンガンのクーラーにさらされて、とても寒かったということも。しかもそのバスの運転手さんはロック系の曲が好きらしく、夜10時なってもロックの曲がガンガンと大音量でかかっていた。中には耳を手で一生懸命抑えていた人も･･･!ともかく、自然は素晴らしい。水牛やヤギの大群、夕日・朝日、そして満点の星空･･･。全てがまだ目に焼きつき、思い出すだけで感動する。

とにかく私はタイ人の真似をして何でも食べたし、何でもした。休日には毎週友達の家にお邪魔させてもらい、家族のように可愛がってもらった。一緒にスポーツもしたし、お寺にもよく行った。新鮮市場に行ってはグロテスクなものを見て吐きそうになったこともあった。でも私はタイ人の生活を生で感じたくて、たくさん知りたくて、ただそれだけのために何でもした。ある意味どんどんタイ人らしくなったが、私は日本人である誇りを感じるようになっていった。異国の地に行って初めて私は外国人になり、日本という国が常にバックにあった。日本人ということを意識し、タイ人にもなりきっていた私。タイで生活していたそんな私は、自分への憧れの姿だったのかもしれない。何でも挑戦しようとした気持ちを忘れず、あの時の自分に負けないように、これからも精一杯頑張ろうと思う。

プークラドゥン山の頂上にて

2007年度 外国語検定試験奨励金について

語学教育研究室では外国語検定試験合格者に奨励金（図書カード）を贈る自主学習支援の制度を設けています。昨年度は延べ80名の学生に奨励金が贈られました。

今年度も下記により受付しますので、申し出てください。

1. 奨励対象者

愛知大学豊橋校舎 学部及び短大の学生
（大学院生、オープンカレッジ・孔子学院生、科目等履修生、研究生は除く）

2. 奨励基準

(1)	英語検定	2級以上
	TOEIC	470点以上
	TOEFL　PBT	420点以上
	TOEFL　CBT	110点以上
	TOEFL　iBT	36点以上
(2)	ドイツ語検定	3級以上
(3)	フランス語検定	3級以上
	DELF・DALF	A2以上
(4)	中国語検定	3級以上
	HSK	4級以上
(5)	ロシア語検定	4級以上
(6)	ハングル検定	4級以上
(7)	タイ語検定	4級以上
	実用タイ語検定	3級以上
(8)	日本語検定	1級
	ジェトロビジネス日本語能力検定	480点以上

※上記以外の外国語検定試験は受付にご相談ください。

3. 受付期間

2008年1月15日（火）～1月31日（木）

4. 手続き

「学生証」および「合格通知書」を3号館LL自習室カウンターまで持参し、申請してください。

5. 奨励金（図書カード）の交付

受付期間終了後に会議で金額を決定し、本人に通知します。

6. 奨励対象の試験

2007年2月～2008年1月の間に合格した検定試験で、同一言語は1試験のみが対象です。
ただし、本年度入学生は入学後受験したものに限る。

（注）以下の試験は対象ではありません。
TOEFL ITP、TOEIC IP、カレッジTOEIC

愛知大学言語学談話会　－第32回－

公開講座「言語」2007後期プログラム

2007年

⑥9月15日（土）
「西洋中世美術における
『ソロモンの玉座』図像について」
小林久美子（愛知大学非常勤講師）

⑦10月6日（土）
「日本最初の西洋哲学史の翻訳・紹介
－高野長英筆『聞見漫録』(1835年)をめぐって－」
別所　興一（愛知大学経営学部教授）

⑧11月17日（土）
「『語り』の中のイメージとジェスチャー」
片岡　邦好（愛知大学文学部准教授）

⑨12月1日（土）
「子どもは単語をどのように獲得するのか
－トマセロ理論を紹介する（2）－」
伊藤　忠夫（中京大学名誉教授）

2008年

⑩1月12日（土）
「ハングルの勧め」
陶山　信男（愛知大学名誉教授）

時間：14：30～16：30

場所：愛知大学車道校舎
〒461-8641
名古屋市東区筒井二丁目10－31
TEL 052－937－8111（代表）
地下鉄桜通線「車道」下車
1番出口より徒歩2分

◎ **聴講無料**
どなたでも参加できます。（登録不要）

お願い

LL自習室を利用される皆さんからの投稿をお待ちしています。

次号の原稿締切は12月です。